

企業と開発 創造力育む



昨年12月、GIAの大賞に輝いたのは、コケを使った新素材で靴を開発するプランを発表した3年の向山太陽

さん(18)と2年の並里璃王さん(17)。植物が好きで自主的にコケの研究を始めた向山さんと、ビジネス、起業に

部活や授業で実践教育

本年度、選択科目「商品開発」を受講する生徒たちは、渋沢製パン(伊勢崎市)の協力の下、購買のパンの開発にも挑戦した。学校内で好きな食材などを調査し、グループごとにアイデアをまとめて企画書を作成した。「レモンクリームドーナ

購買パン調査 校内で商品化

ツシュ」「ヘルシーサラダのフランスパン」など5種が採用され、好評を得た。生徒たちは「普段購入する商品が試行錯誤されて作られていることを知った」「商品化の達成感を味わった」などと手応えをつかんだ様子だつた。

IAの発表で生きた」と振り返る。同部は昨年8月の県高校生徒研究発表会に靴の商品化を目指し、「コケの研究に励む向山さん(右)と並里さん(中央)

が参加。イオントリート、どりせん、ベイシル、フレッセイと連携して弁当、パン、スマージーなどを開発し、店舗で期間限定で販売した。今井俊一校長は「アイデアを形にするさま

生徒2人がGIA大賞
伊勢崎商業高

起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード(GIA)2021」(上毛新聞社主催・田中仁財団共催)の最高賞の大賞や、県高校生徒研究発表会(県商業教育研究会主催)の最優秀賞など目覚ましい活躍が続く伊勢崎商業高。社会課題の解決策を考える部活動や実践的な教育プログラムを通じ、生徒たちの自主性と創造力を高めている。(土屋麻里)

興味がある並里さんがチームを組んだ。2人はコケの高空気浄化力の宇津木由紀子教諭の指導の下、靴メーカー、織維業者、大学准教授らの協力を得ながら、抗菌消臭効果があつて蒸れない新素材の靴の商品化を目指している。

並里さんは研究と並行して、地元野菜を使つた商品開発や販促活動などに取り組む同校の商業研究部の部長を務めている。「部活動で企画立案、発表の練習などをした経験がGIAの発表で生きた」と振り返る。

このほか、同校では地域課題などの解決策を考える「課題研究」と商業科3年生の選択科目に「商品開発」を設け、実践的な学びを展開する。本年度は県教委が高校生のビジネスの実践的な能力を育もうとする共同開発事業に同校の3年生16人

出場。地元農家から規格外で廃棄処分される野菜を集めて保護者らに販売した「ニコイチマルシェ」の活動について紹介した。発表会では食品ロスを防ぐ工夫と積極的な取り組みが高く評価された。